

『林克士時代の幕開け』

福山商工会議所会頭

最強の二期目スタート

福山経済界の頂点に立つ、福山商工会議所会頭に林克士会頭（靱鉄道会長）が再任された。林会頭は平成二十一年三月、筆頭副会頭から第七代会頭に就任したが、三月という時期はずれの会頭就任となったのは訳があった。

前任の菅田泰介会頭は任期中であつたが、出身母体のホーコスが外為法違反容疑によって捜査を受けたことで、その社会的責任を取り辞任を余儀なくされたことによる。したがって、「次の会頭」と目されていた林副会頭が会頭に推挙されたのだった。その林会頭が昨年十一月九日の臨時議員総会で満場一致で再任されたのであつた。したがって二期目は、本格的な手作りの林体制の船出である――。

林家・林会頭（68）がオーナーである「靱鉄道」（林和子社長）は、明治四十三年に開設された靱軽便鉄道が前身で、大正十五年靱鉄道に社名変更したものである。

したがって林家は昨年のNHKの大河ドラマ「龍馬伝」で舞台になった「靱」&「靱の浦」の名門、主のような存在である。

林会頭は家業の靱鉄道会長の他、靱鉄商事、トモテツセブンの各会長、キヤスパ社長を始め、タカヤ商事、タカヤ、シャープタカヤ電子工業、エフエムふくやまの各取締役、しまなみ信用金庫非常勤理事、大下洋嗣社長の福屋監査役を務める。因みに和子夫人の実家（大塚家）の家業「タカヤグループ」（タカヤ・タカヤ商事、シャープタカヤ電子工業等）

のトップに林克士・林和子夫妻の長男である林真至氏が二十年に就任している。

福山の林、井原の大塚、広島の下家とは婚戚関係にあり、経済界に一大勢力を張る存在である。

経済界デビューの第一歩は、昭和五十二年福山商工会議所議員から始まる。平成四年に常議員、七年、松本卓臣会頭（当時・福山瓦斯社長）の副会頭に就任し、連続三期（九年プラスα）約十年間補佐役を務めた。十六年松本会頭が勇退し、新会頭に菅田泰介ホーコス社長が誕生。林氏は「ヤレヤレ十年間務めたので、これでお役ご免でヤレヤレ」と思っていた矢先、新会頭から再任を要請され、引き受けざるを得なかった。したがって菅田会頭が二期目の途

中で辞任し、林氏が後継として会頭に就任するまで、副会頭を連続約十五年間務めた。いわば名副会頭であり、「林会頭」の誕生は当然すぎるほど当然の会頭誕生であつた。しかし、林副会頭が「会頭」になったことで、副会頭が一人欠員を余儀なくされた。補充という手もあつたが、林会頭は「前会頭の残り任期」ということから、あえて補充せず、欠員のまま林体制がスタートしたのだった。その林内閣二期目が誕生したが、林会頭にとって、自ら組閣した林体制のスタートとなった。林会頭を補佐する四人の副会頭、四副会頭のうち藤井基博、占部誠両副会頭が再任されたが、残る二人のうち欠員が一人、そして天野肇副会頭が退任したことから、新たに二副会頭が就任。

赤松治美氏と松本茂太郎氏で共に初の副会頭である。

筆頭は菅田会頭誕生体制で、副会頭に就任した、藤井基博氏(70)は連続三期目に入った。会議所議員に

父親の藤井正男氏は、戦後初の衆議院議員の一人で、その後、福山市長を二期八年務めた。その間に藤井商事を設立し、藤井学園を創立した。藤井基博副会頭は長男として政治家

学商学部を卒業し、フジタ工業に入社。三年後の四十九年占部建設工業に入社し、平成二年に社長に就任した。五十三年四月、会議所議員になり、平成四年に常議員、平成十八年

一の「アカシン」社長。同社の応用技術製品の業界ではトップシェアを誇る。昭和六十一年三月から議員、平成十三年十一月から常議員。公職は福山市フェンシング協会会長など。松本茂太郎副会頭(64)も初の副



林 克士氏のプロフィール

昭和17年2月10日生、68歳。39年3月慶應義塾大学経済学部卒業。軌鉄道、軌鉄商事、トモテツセブン各会長。キャスパ社長。タカヤ、タカヤ商事、シャープタカヤ電子工業、エフエムふくやま各取締役。公職・広島県バス協会副会長、福山観光協会副会長、ふくやま国際交流協会会長等多数。

会頭。松本卓臣名誉会頭の長男。家業の「山陽染工」社長。ダイヤ石油、内外物産等の社長を務める。昨年三月には福山瓦斯社長にも就任。平成十六年には国際ロータリー第二七〇地区ガバナーを務め、実父の松本卓臣氏もガバナーを務めており、親子二代ガバナーとして話題をさらった。会議所議員は平成元年からだが、行く行くは「会頭」との呼び声も出てくるであろうし、会頭ということになれば、これも「親子二代」ということになりそうだ。

事務方のトップの専務理事は石井耕二氏(64)。昭和四十四年三月、東京農業大学農学部醸造学科を卒業し、昭和四十六年十一月福山商工会議所に入所。業務課長、総務部長を経て十八年四月、常務理事・事務局長兼総務部長から十九年十一月専務理事に昇格し、この度再任された。

就任したのは昭和四十六年というところから、議員歴は四十年に及ぶ。家業の「藤井商事」は高圧ガスや溶接資材等を扱う会社だが、社長を二十五年務め平成十七年から会長。

の父親のうしろ姿を見て育ったこともあって、直球型の親分肌として知られる。

占部誠副会頭(62)は総合建設業「占部建設工業」社長。慶應義塾大

三月から副会頭を務めている。福山大学評議員。

赤松治美副会頭(74)は初の副会頭。赤松副会頭は物流機械、FA機器、精密溶断、シャーリングメーカ

理事・事務局長の福永重孝氏(62)は昭和四十六年三月同志社大学経済学部を卒業し、同年四月福山商工会議所入所。国際課長、産業政策部長、理事・事務局長兼総務部長。



▲三年間、福山経済界のリーダーとして、地域活性化等に取り組む林執行部の5人衆。

左から、新任の赤松治美副会長（アカシン社長）、再任の藤井基博副会頭（藤井商事会長）、林克士会頭（鞆鉄道会長）、再任の占部誠副会頭（占部建設工業社長）、新任の松本茂太郎副会頭（山陽染工社長）。

◀石井耕二・専務理事



この度、理事・事務局長に再任された。任期は平成二十五年十月三十一日までの三年間。

再任二人、新任二人と四人の副会頭で二期目をスタートした林体制。この内閣について林会頭は、「今回の副会頭選任の基準は、キチンと地域に貢献しながら、この地域の発展を一緒に目指して行けるチームを作りたい。そしてこの人なら皆さんが支えていくだろうという基準で選ばせてもらった」。

会頭が選ばれると、前任会頭の要請で副会頭になった副会頭は、交代を余儀なくされるものだが、交代や退任する副会頭たちはみな会頭を支え任務に頑張っている。しかしトップが交代すると地域に対する考え方も若干変わるであろうし、そうすれば「自分を分かってくれる副会

◀福永重孝・理事・事務局長



頭を」というのは当然で、会頭が交代しても再任される副会頭や新任副会頭も誕生するのは、どこの会議所でも同じことである。

林会頭にとってみれば、一期目の会頭は前会頭内閣の引き継ぎであり、いわば「仮免許」のような内閣でもあった。したがって二期目は「自分の意のままの人事」というのは当然のことであろう。そして生まれたのが四副会頭である。決して華のある大受けする派手な内閣ではない。広島は、マツダ、中国電力、広島銀行のいわゆる「御三家」から副会頭が誕生したが、確かに「凄い！」と大受けするが、福山は玄人受けするいぶし銀のような副会頭が就任した内閣である。二期目の林体制の行く先は、株で言えば「買い」であることは間違いない。

福山商工会議所会頭 林 克士氏

「龍馬伝」で知名度アップ。千客万来の福山に

自前のチームで
地域再生に取り組む

二期目を再任されましたが、本格的な林体制の船出ですね。

林 一期目は前会頭が途中で辞められて、一昨年の三月に会頭に就任しました。前会頭の残り任期は約半年の一年七カ月ですが、私が会頭になったことで副会頭が一名欠員になっ

たのですが、残り任期ということであつたので、三副会頭体制でスタートしました。会頭に就任する前の年の秋に、リーマンショックが起こり、次の年の三月、四月と景気が最悪の状況のなかでの会頭就任という大変な時期のスタートでした。ショックの対応に追われ放しでした。

と同時に、商工会議所八十周年記念式典があつて、それに合わせて秋

に「青年部」を発足させた。このように本当によく分からないバタバタした中途な一期目でした。みなさんに支えられた一期目でした。

一期目で苦勞されたわけですから、二期への再任は当然でしょう。林 当然かどうか分かりませんが、一期目を終える頃に、みなさんから「あんたやれ」と言ってもらったり

しまして。昨年の十一月九日の臨時議員総会で、「これから三年間やれや」とずっと決まりました。

満場一致ですね。会頭という職務をどう認識しておられますか。

林 副会頭の時は会頭職の重さというものをあまり感じていませんでした。正直に言つて。しかし自分が会頭になって改めて会頭という重さを実感しました。会議所の事業の進め方、みなさんより一歩先に集約して流れを作ったり、キッチンとした方向性を出さなければいけない。そして発信する。結構、重荷になる（笑）。立場上の責任もあるし、時間は取ら

れるし、大変でございますよ。

副会頭四人はどういう基準で選任されたのですか。

林 ご承知のように三人体制でやってきた。各分野に秀でた方ばかりなので、それなりにやってきたつもりです。今回は四人の定員ということですが、再任二人、新任二人と四副会頭ですが、副会頭選任の基準は「キッチンと地域に貢献しながら、この地域の発展を一緒に目指して行けるチームを作りたい」と思って動いた。新任の赤松さんは非常に立派な方ですし、松本さんには若さと行動力で共に大いに期待しています。

みなさんからも「この人なら」と支えて頂ける人事だと思っております。

「龍馬伝」で鞆の浦が
改めて脚光をあびる

会議所・会頭の役割も色々ありますが、地域を元気にしたいというのとはどこも同じですが、なかなか決め手はありませんね。即効薬は観光ですか。どこも観光に力を入れていますが、瀬戸内海を活かした観光がキーワードになっています。福山の場合はやはり鞆の浦ですね。

林 鞆の浦は世界遺産の宮島のようなレベルとは違いますが、歴史的遺産という点では宮島と遜色はないと



▲三年間福山経済界の舵取りを担う福山商工会議所の林克士会頭は「信頼される、なくてはならない商工会議所」を目指す。

思います。「ポニョ」と「龍馬伝」(龍馬ブーム)によって観光客が急増している。

観光客の意識も変わってきています。鞆にうちの「鞆の浦観光情報センター」があり、観光ガイドをやっていますが、この観光ガイドが飛躍的に増えています。行って観るだけじゃなく、その土地の古い話、色々な因縁を勉強したいという人が多い。そういったことに関心が更に高まっている現実があります。

坂本龍馬は鞆の浦へ何度も寄っているが、龍馬の奥さん、「お龍」さんですが、龍馬がお龍にあてた手紙には、「鞆殿」と書く。龍馬は鞆の浦がとても気に入っていて、お龍殿ではなく鞆殿としたようです。手紙の一部が残っています。鞆というのは歴史的にインパクトがある。そういう歴史が今の時代によりみがえっています。混迷の時代には原点に返ろうと、立ち止まりたいというのが鞆。

—— そんな鞆港に架橋問題で揺れています。万一、橋が架かってしまふと、歴史的景観ががらっと変わりますね。

林 その問題はみなさんのご意見があり、色々難しい。私の今の立場では「良い」「悪い」という論評はできない。県や市、地元民がよく議論して決めることです。

—— 広島県の観光といっても辛口で言えば陸にはない。やはり海に面したところに観光がある。宮島だつて島だし、鞆だつて港です。そうするとこれからの観光資源は瀬戸内海です。瀬戸内海を舞台にした『安芸灘の風』(レーモンド松屋)という歌が静かなブームになっているように。



▲「各界各層の声に耳を傾けながら、国・県・市・関係団体と連携を図って行く」と語る林克士会頭。

が去年の一月に「燧灘」というCDを出しています。いい歌ですよ、コレ。—— ああそうですか、燧灘ですか……。

林 なんで「ひうち」かというところ、あそこで双方の潮が火打ちのようにつかつかつて止まる。だからあそこを一気に通過するというのは当時はエ

林 そうですね、一昔前を考えたなら、鞆が栄えたのは海上交通です。万葉の時代から、例えば朝鮮通信使一行(江戸時代)も必ず鞆の浦に寄港しています。鞆は瀬戸内海の潮と南方からの潮が上がってぶつかり合う。鞆の沖をなんと言いかご存知ですか？あまり知らないと思います。燧灘ひうちなだというんです。上杉香緒里という歌手

ンジンがないわけですから、物理的に難しかった。だから鞆港で潮待ちをした。

—— なるほど。

林 鞆の景色は海から見る景色が正式なんです。鞆の浮世絵や古い絵図を見ますと、ほとんどが海から見た鞆の浦です。昔は非常に栄えたところですよ。

鞆の浦と宮島は非常に組み合わせがいいんです。遠くから来られた方、特に関西より関東から来られた方、鞆の浦に来られた方に「今日はどこへ泊まれるのですか？」と聞くと、「宮島」だと。鞆には大きなホテルや旅館がないし少ないが、宮島にはあります。だから広島県内を回遊してもらう流れが出来つつあります。遠くからみると備後から安芸へ、安芸から備後へという二つのピンポイントがうまくからみあっている面があります。

—— アジア、特に中国人の観光客が大勢日本を訪れているようですが、広島・瀬戸内海には来ませんか。

林 アジアという大きな観点になると難しいと思います。今のところ、やはりアジアからみた場合、ポイントには九州、福岡があつて、あとは東京がメインで京都、雪が見たいという人は北海道、札幌。東京近郊には富士山や伊豆・箱根がある。その中間あたりの中国地方・瀬戸内海は通過点になっています。物理的に、

—— だけどここを通らないと東京へ行けないわけですから、ちよつと立ち寄ってもらえばいい。福山には福山城という文化度の高い立派なお城もあります。そういったものをキチンとブランド化してPRしていくことが大事であると思います。

全国的に人口が減る中で 福山は人口増加がつづく

―― 鞆の浦観光は誠に明るい話題ですが、都市としての福山は。

林 福山駅前の整備が最大の課題でしたが、大分遅れましたが完成を目前にしています。駅前の地下送迎場も夏には開設される見通しですし、地上の駅前整備、バスターミナルも来年度中に完成します。

二つの再開発のうちの一つ、旧福山繊維ビル跡地は「アイネスフクヤマ」として一月末にも完成します。

福山市内最高の百一坪のビルです。オフィス、商業施設、ホテル（リッチモンドホテル二百室）に分譲マンションからなるツインタワーで三月末に全面オープン運びです。東側の伏見町再開発はなかなか大変な状況で進んでおりませんが、西側の再開発が完成することで、駅前も大分見栄えが良くなってきました（笑）。ただ大きな商業施設が郊外にどんどんできて、その上、学校や病院も山の上に行って中心市街地が拡散してきている。福山駅前は縦に長い。普通の駅前とは横長です。岡山駅前は基準で広島も横ですが、広島は都市規模からするとちょっと狭い、もっと広くてもいい。だけど福山は縦長で、横がないので駅前広場も難しい。その

上、東西が分断されている。だから東西の回遊がマッチングしにくい面があります。しかしインフラ（電気・ガス・下水道等）が揃っているわけですから、もっと中心に色々なものが集約してもらえば、インフラなしで集約できるわけですから、もう一辺集まってもらって中枢機能を取り戻すことが大事だろうと思います。

―― 駅前をもうちょっと元気になりたいですね。回遊する魅力が必要ですね。

林 広島は八丁堀・紙屋町、駅前。岡山は駅前と表町と、県庁所在地は賑わいが二眼レフになっている。しかし福山のように県庁のない三十万から五十万都市は一眼レフでもむずかしくなっています。人口はどんどん減ってくるわけですから、地方は一瞬レフも段々消えていってしまいます。そういった中で福山は有難いことに人口が毎年千人程度増えています。つまり地元で生まれた子が増えているということです。これが一番大きい。

―― 生む環境がいいんですかね（笑）。福山の未来は明るいじゃないですか。

林 人口が減っていく中で増えるんですからねえ。面白いデータがあって、ご存知のように福山は製造業の町ですが、昨年三月に発表された県

の統計によると、福山の工業の事業所の数が千五十六社。この数字は広島市より多い。広島市の人口の半分に満たない福山市が、製造業の事業所の数は広島市より数が多いです。

―― へえ、そりゃすごい。

林 広島のようにマツダや三菱のようなものはないが、福山には色々なものを作っている会社が沢山ある。そして社長自ら陣頭に立って最前線で号令をかけて前に出るといふ企業が多い。非常に決断も早いし、新しいものを作っているという意欲は強い。フットワークもいい。必要になつて次のことを考えている。これが福山の製造業です。福山が製造業の町と言われる由縁です。この福山に大変明るいことがあります。

―― ほう、観光以外に？

林 シャープさんが福山にLEDの一大拠点としてLEDの研究開発拠点を集約することになりました。今LEDの本部棟の横に別棟を建てていますが、千人ほどの研究者と家族が来ます。これは非常に有難いことで、我々地元にとってもビジネスチャンスが生まれてきますしね。大きな会社は設備投資はしても、人はあまり必要としない。ところが研究機関は人というすそ野がありますから。シャープさんには感謝、感謝です。

か、福山は。

林 人口が減るといふことは衰退への道です。県庁所在地以外の地方都市はきびしい。人口が増えない分、千客万来が欲しい。そのために都市間競争も激しい訳です。福山の我々だって危機感を持っていますよ。